

加治木工高生現場見学会

大規模工事に興味

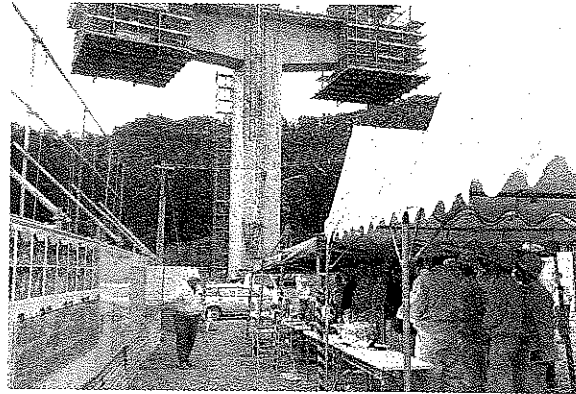
建協加治木支部

県建設業協会加治木支部（木山裕継支部長）主催の加治木工業高校生現場見学会が24日行われた。土木科1年生40人は、普段見ることができない大規模な工事現場を興味深く見学した。

同校であった出発式では、同支部の岩下吉則理事が「たぐさんの現場を見て、将来の方向性を見つめる一助になれば」。満丸浩校長も「百聞は一見にしかず。しっかり勉強してきてほしい」と激励した。

同日は、奥始良・伊佐地域振興局建設部の堀之内毅技術主幹、同支部から岩下理事、末重堅司監事、村山博美事務局長が

同行。霧島市の丸尾滝橋では高い技術力に裏付けされた難工事の進め方な



どを説明。火山砂防・霧島川工区の現場では、模型を使ってがけ崩れや地すべりの仕組みなどを学び、人命と財産を守る事業の目的や効果について認識を深めた。また、西光寺拡幅の橋梁現場では、工事用エレベーターで橋の上に初めて立ち入った生徒らは、見るものすべてに興奮した様子だった。各現場で生徒代表が「きょう経験したことを今後の進

普段見れない現場を見学する生徒＝霧島市の現地で

路に生かしていきたいと思えます。ありがとうございます」とお礼の言葉を述べた。

葉を述べた。宮田帆香さんは「最初は恐怖心もありましたが、

トンネルの中や橋を見てとても感動しました」と話した。

鹿工高生現場見学会

最前線の知識学ぶ

県建設業協会は2日、鹿児島市吉野町などで現場見学会を開いた。鹿児島工業高校土木系の生徒

40人が参加し、建設業の最前線で働く技術者から最新の知識や技術を学んだ。

同日は、火山砂防・花倉第3谷（施工・㈱鹿大丸）の現場やマリンプールかじしまの見学のほか、

県建設センターで最新工法などについて説明を行った。

吉野町の現場では、県の馬場園良幸技術主幹兼河川砂防第一係長らが工事の概要を説明。砂防えん堤の役割や緑化プロッ



タワークレーンの動きに見入る高校生＝鹿児島市の現地で

クを設置して景観を守りながら施工していること、急傾斜地で行う工事の注意点などを話したほか、高さ30mのタワークレーンの操作を演じた。また、生徒から「この現場に必要な資格は」「どれくらいの人員で施

工しているのか」「大変だったことは何か」などの質問があり、担当者が分かりやすく回答した。参加した園田寛人さんは「きょう学んだことを持ち帰り、今後の授業や実習に生かしていきたい」と抱負を述べた。

次代の技術者目指せ

東九州道を高校生が見学

鹿屋支部・大隅河川国道協建



「地元就職」へ希望の声も

県建設業協会 鹿屋支部（谷口幸司支部長）と九州地方整備局大隅河川国道事務所（加藤仁志所長）は25日、東九州自動車道の建設現場で地元高校生を招き、現場見学会を行った。参加した生徒は、今後の進路選択の参考にしようとする。工法の説明などに聞き入った。

生徒は現場で説明の工法を聞き入る

見学会には、鹿屋工業高校土木科の1年生32人と鹿屋農業高校緑地工学科の1年生23人のほか、同事務所、同支部関係者ら12人が参加した。

訪れた現場は、東九州道（大崎～鹿屋）天神跨道橋外上部工（施工・松尾建設㈱）、東九州道（大崎～鹿屋）天神地区（第2工区）改良（施工・肝付土建㈱）の2カ所。大隅河川国道事務所から工事概要の説明があったほか、現場担当者から工法や工事の進め方、コンクリートの性質、改良工事における注意点などの解説を受けた。

鹿屋工業高校の竹原賢

斗君は「機械を使った仕事に興味があり、将来は土木の技術者を目指しているのが参考になった。この経験を生かして、できれば地元就職したい」と話した。

谷口支部長は「地元から1人でも多くの技術者が育ってほしい。現場に興味を持って、今後にかかしてもらえたら」と生徒たちの将来に期待を込めた。